



第 119 期
報 告 書

平成 19 年 3 月 1 日 から
平成 20 年 2 月 29 日まで



東宝株式会社

証券コード：9602

© 2008 二馬力・GNDHDDT

“外部の才能”とのコラボレーションと企画力で映画

東宝の映画創りは
“本業同士の協業”を通じて
さらに進化しています。
“史上最強”と評される2008年の
ラインアップが生まれる背景を、
高井社長ならびに島谷専務がご説明します。

映画調整部・映像制作部の役割とは？

高井 当社の映画調整部は1973年に新設されました。テレビの台頭で映画会社が全て自社製作することが困難な時代に、いち早く東宝は社外の力を活用する必要性を自覚して外部・・・テレビ・出版・広告代理店を含む企業やプロデューサーや監督など製作者・・・との窓口を設けた、それが映画調整部の始まりです。現在の東宝は主に外部とのコラボレーションで映画を企画・製作し、当社が宣伝・配給を行っています。毎年の映画のラインアップそのものが映画調整部の成果であり、東宝の映画営業収入の好調は映画調整部が30数年の歴史で培ったノウハウが花開いた結果ともいえますね。

島谷 映画調整部の一番の仕事は、お客様に喜んでいただける映画の企画を集めることです。外部の企画を発掘したり権利を取得したり、自分たちで開発するなど様々な方法で企画を集め、作品を製作し、社内の配給・宣伝部門に確実にリレーする。お客様に映画をお届けする長い行程の最初の窓口、編成部門が映画調整部です。東宝の映画の好調は、ひとえに当社がおつきあいするプロデューサーが、社内も含めてですが、今の時代のお客様が欲しいものを確実に捉えた作品を生み出しているからだと思います。本当に感謝したいですね。今年もまた能力ある素晴らしい方々と出会い成功に向けて一緒に汗をかくのは最高の喜びですし、これからもそれを続けていかなければならないと思っています。

一方、映像制作部は映画、テレビ、DVDなど全ての媒体を対象に自分たちで映像を作る部門です。グループ内の(株)東



代表取締役社長
高井 英幸

宝映画と比較すると、映像制作部はもともとテレビドラマを作る部門でしたので、テレビとの連携で生まれる企画や低予算でも企画性の高いものが多い傾向があります。

東宝のラインアップを決めるキーワードは？

高井 シネコンの登場でスクリーン数が増加し、配給会社である東宝に、より多くの作品数が求められるようになりました。現在は毎年約30本を目標に、2008年は邦画系11本と洋画系16本、計27番組を予定しています。

島谷 ラインアップは映画調整部が集めた企画をもとに編成プランを立て、社長が議長である映像本部会で全社的に議論して決定されています。2008年は待望の宮崎駿監督の新作を中心に、長年の経験でも減多にないバラエティに富む豊かな作品が集まりましたが、最初から毎年のテーマを決めているわけではありません。老若男女どなたでも楽しめる映画、誰もが笑ったり泣いたりハラハラドキドキできる作品を揃える努力の結果が今回の多彩な作品群となりました。

高井 公開の1年以上前には毎年約30本の企画を決める必要がありますが、人間が考えるわけですから、良いものがたくさん集まる時もそうではない時もあります。映像本部会ではせっかくの企画を我々がどのように活かせるか、映画を売る立場から議論しています。全国の劇場公開を念頭に、作品を多角的に宣伝するためのキーワードをどれだけ見出せるか、実際に映画を撮影する前に企画の可能性を見極めることとなります。

ビジネスの可能性をさらに広げます。

規格外の企画こそ次世代を担うものかもしれない、だからこそ好き嫌いではなく常に白紙の状態で企画と向き合うことが重要です。

外部とのコラボレーションの成功の秘訣は？

島谷 機械ではなく人間同士が向き合う仕事だけに、やはり試行錯誤を積み重ねてきたことにつきますと思います。数多くの実戦体験を通じて、外部の才能を受け入れて映画マーケットに広げるためのノウハウを我々を含め配給・宣伝部門全体が身につけてきたことが外部の方に評価をいただけているのではないのでしょうか？

高井 映画ビジネスが厳しい時代も(株)東宝映画や映像制作部門を維持してきた根底に、東宝が自社で映画を製作する気持ちがあったのは間違いありません。ただ100%の自社製作が良いのか、メリット・デメリットを現時点で考えると、皆様に喜んでいただく作品を少ないリスクで世に送り出すコラボレーションは非常に重要です。

島谷 企画・製作のレベルは年々非常に高まっています。映画からテレビ・DVD・出版・音楽等とビジネスが多角化することで、外部の皆様の意識も変化し、単なる異業種参入ではなく本業意識での協業時代となりました。こうした事も日本映画の好調の原因の一つだと思います。私どもも外部の方々に学ぶべきは学び、お客様に喜んでもらえる作品を一本でも多くつくっていききたいですね。その源泉となる面白い企画を全員で探そうと、街を歩いている毎日です。



専務取締役 映画調整・映像制作担当
島谷 能成



今後の国際部との連携の可能性は？

高井 子会社であった東宝国際(株)を2007年4月から本社の国際部としました。従来は日本映画の海外営業が中心でしたが、今後は東宝がグローバルに映画ビジネスを展開する窓口としてより幅広い機能を期待しています。

島谷 国際部は米国版ゴジラの製作やキャラクタービジネスを通じて海外との契約実務ではかなりの経験を持っています。リメイク権の取得等海外の権利関係者との契約は非常に複雑化しており、国際部の強力なサポートを得て映画調整部の可能性をさらに広げたいと思っています。

今後の展望について

高井 映画事業の好調を背景に、将来の布石として、各地のシネコン建設、不動産の再開発、スタジオの全面的な改造、シアタークリエの開場、そして2008年3月には4つの映画興行子会社をTOHOシネマズ(株)へ統合いたしました。大規模な再開発や改革が一段落するなか、今後はシアタークリエや興行部門の統合を本当の意味で成功させていく、そして映画事業においては今後も好調を続けるための企画づくりが改めて重要となります。

株主の皆様には東宝グループの可能性と成長性にご期待いただきながら、引き続き中長期的な視点で当社事業をご支持ご支援賜りたく、心よりお願い申し上げます。

営業の概況

当期におけるわが国の経済は、米国サブプライムローン・ショックや原油価格高騰の余波を受け、前半の回復から足踏みに向けて推移いたしました。

映画界におきましては、スクリーン数は前年比159増の3,221に達し、公開本数も歴代2位の810本を数えましたが、入場人員は前年比微減、興行収入も前年の2千億円台に届きませんでした。1スクリーン当たりの興行収入は依然減少傾向が続き、映画興行事業を取り巻く環境は、ますます厳しいものとなりました。

このような情勢下において当社グループの業績は、不動産事業の不動産賃貸事業部門、道路事業部門が成績を伸ばし、映画事業のうちスクリーン数が増加した映画興行事業部門、演劇事業、不動産事業のうち不動産保守・管理事業部門が微増となりましたものの、映画事業の映画営業事業部門、映像事業部門はメガヒット作品の続いた前期に及びませんでした。この結果営業収入は2,050億3千7百万円（前期比2.0％増）、営業利益は199億5千8百万円（前期比14.7％減）、経常利益は216億9千3百万円（前期比15.0％減）、当期純利益は72億8千9百万円（前期比6.3％減）となりました。

以下各事業部門ごとにご報告申し上げます。

■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、東宝(株)において「バッテリー」「アンフェア the movie」「名探偵コナン 紺碧の棺」^{コナン・クロウブルー}「眉山」「そのときは彼によろしく」「舞妓Haaaan!!!」「西遊記」「Life 天国で君に逢えたら」「HERO」「クローズド・ノート」「クローズZERO」「ALWAYS 続・三丁目の夕日」「恋空」「椿三十郎」「マリと子犬の物語」「スマイル 聖夜の奇

跡」「えいがでとーじょー!たまごっち ドキドキ!うちゅーのまいごっち!?」「劇場版BLEACH The Diamond Dust Rebellion もう一つの氷輪丸」「銀色のシーズン」「陰日向に咲く」「チーム・バチスタの栄光」を共同製作したほか、(株)東宝映画において「椿三十郎」「そのときは彼によろしく」「スマイル 聖夜の奇跡」「クローズド・ノート」「マリと子犬の物語」を製作いたしました。また東宝(株)において前記作品のほか、「映画ドラえもん のび太の新魔界大冒険〜7人の魔法使い〜」「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ 歌う ケツだけ爆弾!」「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ディアルガVSパルキアVSダークライ」「劇場版NARUTOーナルトー疾風伝」のヒット作を含む25本を、東宝東和(株)において「ボーン・アルティメイタム」等ユニバーサル・ピクチャーズ作品4本を含む12本を配給いたしました。その結果、映画営業事業収入は、398億8千4百万円（前期比0.8％減）となりました。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)ほかグループ各興行会社において前記各作品のほかに、「スパイダーマン3」「ダイ・ハード4.0」「パイレーツ・オブ・カリビアン／ワールド・エンド」「ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団」「ナショナル・トレジャー2」「バイオハザードⅢ」「アイ・アム・レジェンド」等、邦洋画の話題作を上映いたしました結果、映画興行事業収入は、580億9千3百万円（前期比2.7％増）となりました。なお、本年3月1日のTOHOシネマズ(株)への合併に向け、当期末をもって東宝東日本興行(株)、東宝関西興行(株)、九州東宝(株)、中部東宝(株)各社は事業を終了いたしました。また、当社グループの当期中の劇場異動は表1の通りとなり、興行マーケットの再構築を進めました。これらにより、当社グループのスクリーン数は、18スクリーン増の556スクリーン（共同経営32を含む。）となり、さらに東宝系興行網の充実が進展いた

表1. 当期中の劇場異動

月日	劇場名	スクリーン数	場所	経営主体	異動内容
平成19年3月1日	浜東シネタワー3	(1)	東京都渋谷区	TOHOシネマズ(株)	(株)渋谷文化劇場経営を吸収合併
3月9日	TOHOシネマズ 流山おおたかの森	11	千葉県流山市	TOHOシネマズ(株)	オープン
3月13日	TOHOシネマズ ちらぼーと横浜	13	横浜市	TOHOシネマズ(株)	オープン
4月15日	長野東宝中劇	△1	長野市	関東共栄興行(株)	閉館
5月22日	OS阪急会館 1・2	△2	神戸市	オーエス(株)	閉館
6月28日	TOHOシネマズ 高槻	△9	大阪府高槻市	TOHOシネマズ(株)	事業譲渡 (経営は地元企業)
7月13日	浦和ヴェルデ 東宝	△3	さいたま市	東宝東日本興行(株)	閉館
8月10日	TOHOシネマズ サンストリート浜北	9	浜松市	TOHOシネマズ(株)	オープン
9月21日	OS劇場 OS名画座	△2	大阪市	オーエス(株)	事業譲渡 (経営はTOHOシネマズ(株))
9月24日	三番街シネマ 1・2・3	△3	大阪市	TOHOシネマズ(株)	閉館
10月1日	TOHOシネマズ 梅田アネックス	2	大阪市	TOHOシネマズ(株)	オープン
10月28日	下関東宝劇場 下関スカラ座	△2	山口県下関市	九州共栄興行(株)	閉館
11月6日	TOHOシネマズ 西新井	10	東京都足立区	TOHOシネマズ(株)	オープン
平成20年2月1日	浜大津アークスシネマ	△5	滋賀県大津市	TOHOシネマズ(株)	事業譲渡 (経営は地元企業)

注：オーエス(株)は、持分法適用会社です。

しました。

映像事業のうち映像制作事業では、東宝(株)においてテレビ放送用連続ドラマ「モップガール」「ひとがた流し」「指紋は語る3」等2時間ドラマ6本を制作し、また劇場用映画「そのときは彼によろしく」「Life 天国で君に逢えたら」「陰日向に咲く」を製作いたしました。ビデオ事業は、東宝(株)において表2ほかの提供を行いました。

表2. 東宝(株)において期中に提供した主なビデオ作品

作品・商品名	年	レンタル用DVD (リリース日)	販売用DVD (発売日)
涙そうそう	平成19年	3月23日	—
ウィンター・ソング		4月6日	4月20日
WWE レッスルマニア・アンソロジーBOX		—	4月20日
水野真紀の魔法のレストランBOX		—	5月18日
NANA 2		6月8日	6月22日
エライところに嫁いでしまった!		6月22日	6月22日
TVシリーズ 社長になった若大将BOX		—	6月22日
今宵、フィッツジェラルド劇場で		7月13日	7月27日
それでもボクはやってない		8月3日	8月10日
映画ドラえもん のび太の新魔界大冒険〜7人の魔法使い〜		8月3日	—
エディット・ピアフ コンサート&ドキュメンタリー		—	9月21日
東宝GSエイジ・コレクション 東宝GS映画BOX		—	10月26日
たかじんnoばあ〜DVD-BOX THE ガオー LEGEND		—	10月26日
黒澤 明 DVDコレクション<普及版>		—	11月9日
眉山	平成20年	11月9日	11月23日
アクターズ・スタジオDVD-BOX I		—	12月21日
西遊記		1月1日	1月1日
ガンジス河でバタフライ		—	1月18日
Life 天国で君に逢えたら		2月15日	2月22日
エディット・ピアフ 〜愛の讃歌〜		2月15日	2月22日

出版・商品事業は、「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ディアルガVSパルキアVSダークライ」をはじめとする、東宝(株)配給作品関連が順調に稼働いたしました。版權事業は、「東宝怪獣キャラクター」等の商品化権収入に加え、各種配分金がありました。また、(株)東宝映像美術、東宝舞台(株)、東宝アド(株)各社では、激化する業界他社との競合のなか映画、演劇の美術、イベント、広告等の受注増を図りました。しかしながら映像事業収入は前期には及ばず、287億3千2百万円（前期比2.0％減）となりました。

以上の結果、映画事業収入は、1,267億1千1百万円（前期比0.5％増）となりました。



■ 「恋空」



■ 「マリと子犬の物語」



■ 「パイレーツ・オブ・カリビアン／ワールド・エンド」
© Disney Enterprises, Inc. All Rights Reserved.



■ TOHOシネマズ サンストリート浜北



■ 「陰日向に咲く」



■ 「黒澤 明 DVDコレクション」

■ 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)の帝国劇場において「レ・ミゼラブル」3ヶ月公演、「DREAM BOYS」「モーツァルト！」などが大ヒットいたしました。また「Endless SHOCK」が全席完売の記録を更新し、公演通算500回を突破いたしました。11月にオープンしたシアタークリエは、オープニング作品「恐れを知らぬ川上音二郎一座」、1・2月の「放浪記」ともども完売の好調なスタートをきることができました。日生劇場においては、ミュージカル「ジキル&ハイド」と「ウェディング・シンガー」が好評を博しました。さらに、全国へと展開を続けている東宝演劇の各公演も事業収益に多大の寄与をいたしました。一方、東宝芸能(株)では、コマーシャルや製作舞台が好調に推移いたしました。これらの結果、演劇事業収入は132億7千6百万円（前期比5.0%増）となりました。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、東宝(株)の不動産経営部門において、昨年3月に有楽町東宝ビル（飲食施設）、5月に函館東宝ビル（スーパーホテル函館）、10月に高知東宝ビル（リッチモンドホテル高知）、11月に東宝シアタークリエビル（演劇劇場「シアタークリエ」・ホテル「レム日比谷」）が竣工オープンし、それぞれ業績に貢献いたしました。また、全国オフィステナント等の契約見直し・賃料改定を積極的に行い収入増を図りました。また同社東宝スタジオでは、「開かれたスタジオ」の合言葉のもと、引続き積極的な営業展開を行っております。ステージレンタルでは「ザ・マジックアワー」「隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS」など東宝(株)配給作品のほか、「SHUTTER」「INJU」など外国映画も含めて計22本の作品を誘致し、80%を超える高稼働率で推移いたしました。8月には新たな正面ゲートも完成し、

13mを超える「七人の侍」の巨大壁画と体長2mのブロンズ製ゴジラ像がスタジオの新たな顔としてお客様をお迎えしています。本年1月には新「第3・4ステージ」も完成してスタジオ改造計画もほぼ完了し、いよいよ全12ステージ体制が整いました。また東宝不動産(株)でも、ビル諸設備の充実、テナントへのきめ細かな対応を図るとともに積極的に新規賃貸物件の取得に努め、さらに全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社も、営業努力を続けました。これらの結果、不動産賃貸事業収入は281億1千7百万円（前期比6.3%増）となりました。

道路事業では、スバル興業(株)とその連結子会社が、国及び地方自治体の財政改革に伴う公共事業費縮減、同業他社との受注・価格競争激化など厳しい事業環境下、技術の向上やグループ企業間の連携のもと積極的な営業活動を展開し、道路補修工事等の受注確保と環境関連工事等のきめ細かな受注に努めました結果、道路事業収入は216億2千6百万円（前期比14.5%増）となりました。

不動産保守・管理事業では、低価格競争と人件費水準の上昇による依然厳しい経営環境のもと、東宝ビル管理(株)、(株)東宝サービスセンターを中心に営業及びコスト削減努力を重ね、不動産保守・管理事業収入は114億8千5百万円（前期比1.6%増）となりました。

以上の結果、不動産事業収入は612億2千9百万円（前期比8.1%増）となりました。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業では、(株)東宝エンタープライズ及び東宝共栄企業(株)等において営業戦略の見直しを図りましたが、DIY関連部門の伸び悩みが響き、その他事業収入は38億2千万円（前期比32.5%減）となりました。

来期の見通し

今後のわが国経済は、対米輸出の鈍化、原油・原材料高による設備投資意欲の減に加え、年金不安、可処分所得減少世帯の増加に伴う消費の低迷など、厳しい状況が見込まれます。

映画界におきましては、スクリーン数こそ3,200を越えたものの、1スクリーン当たりの興行収入は依然減少傾向にあり、映画館の淘汰はますます激化していくものと思われます。今後は、ハードの整備による新規顧客の増加は難しく、お客様のニーズに的確に応えるコンテンツをより多く提供していくことが、最重要課題になると思われます。

そのような中、当社グループの通期における業績見通しは、営業収入2,000億円（前期比2.5%減）、営業利益185億円（前期比7.3%減）、経常利益200億円（前期比7.8%減）、当期純利益100億円（前期比37.2%増）をそれぞれ予想いたしております。

以下各事業部門別の見通し（2月末現在）をご説明申し上げます。

■ 映画事業（映画営業事業、映画興行事業、映像事業）

映画営業事業は、東宝(株)において「ガチ☆ボーイ」「映画クロサギ」「名探偵コナン 戦慄の楽譜」「砂時計」「隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS」「山のあなた～徳市の恋～」 「ザ・マジックアワー」「花より男子ファイナル」「崖の上のポニョ」「20世紀少年」「デトロイト・メタル・

シティ」「パコと魔法の絵本」「イキガミ」「ホームレス中学生」「ハッピーフライト」「私は貝になりたい」「劇場版メジャー」「K-20 怪人二十面相・伝」「感染列島」「誰も守ってくれない」を共同製作、配給し、(株)東宝映画においては「隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS」を製作いたします。また前記作品のほか、配給受託作品として「映画ドラえもん のび太と緑の巨人伝」「映画クレヨンしんちゃん ちょー嵐を呼ぶ 金矛の勇者！」「少林少女」「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ギラティナと氷空の花束シェイミ」「劇場版NARUTOーナルトー疾風伝08（仮題）」「容疑者Xの献身」を配給し、東宝東和(株)において、「レッドクリフ」等12本を配給する予定です。これらにより、映画営業事業収入は378億円（前期比5.2%減）を見込んでおります。

映画興行事業では、TOHOシネマズ(株)を中心とするグループ各興行会社が前記配給作品に加え「インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国」「ナルニア国物語／第2章：カスピアン王子の角笛」「ハリー・ポッターと謎のプリンス」「地球が静止する日」「ウォーリー」等の大作、話題作を上映する予定です。これらにより、映画興行事業収入は、585億円（前期比0.7%増）を見込んでおります。3月1日には、TOHOシネマズ(株)が、東宝東日本興行(株)、東宝関西興行(株)、九州東宝(株)、中部東宝(株)の各興行会社を吸収合併し、現在被合併会社が経営する200スクリーンを統合、経営基盤の充実とオペレーションの効率化、観客へのサービスの向上を図り、競合の激化する経営環境におい



■ 「Endless SHOCK」



■ シアタークリエ オープン



■ 東宝スタジオ 新「第3・4ステージ」



■ 「隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS」



■ 「デトロイト・メタル・シティ」



■ 「ナルニア国物語／第2章：カスピアン王子の角笛」
©Disney Enterprises, Inc. and Walden Media LLC. All Rights Reserved.

て、映画興行事業の強化を進めてまいります。一方、当社グループの来期中の劇場異動予定は表の通りとなり、引続き興行体制の強化に努めてまいります。

来期中の劇場異動予定					
月日	劇場名	スクリーン	場所	経営主体	異動内容
3月1日	鯖江シネマ7	△7	福井県鯖江市	TOHOシネマズ(株)	事業譲渡 (経営は地元企業)
3月26日	TOHOシネマズ 鳳	10	大阪府堺市	TOHOシネマズ(株)	オープン
8月31日	長崎ステラ座	△1	長崎市	九州共栄興行(株)	閉館
9月予定	TOHOシネマズ 長崎	9	長崎市	TOHOシネマズ(株)	オープン
12月予定	TOHOシネマズ 西宮OS	12	兵庫県西宮市	TOHOシネマズ(株) オーエス(株)共同経営	オープン

注：オーエス(株)は、持分法適用会社です。

映像事業のうち映像制作事業では、東宝(株)において連続ドラマ「パズル」、2時間ドラマ「指紋は語る4」他のテレビ番組を制作し、また劇場用映画「デトロイト・メタル・シティ」を製作いたします。ビデオ事業は、レンタル及びセル用作品として「クローズド・ノート」「マリと子犬の物語」「ダーウィン・アワード」「デトロイト・メタル・シティOVA」「モヤモヤさまぁ〜ず2」等を提供し、他にレンタル用作品として「クローズZERO」「ALWAYS 続・三丁目の夕日」「椿三十郎」「えいがでとーじょー！たまごっち ドキドキ！うちゅーのまいごっち!?」「チーム・バチスタの栄光」等、セル用作品として「恋空」「ヒトラーの贗札」「植木等のゴクラク映画ボックス」「アクターズ・スタジオ ジョニー・デップ」「岡本喜八 暗黒街BOX」等のバラエティに富んだ作品群を提供します。出版・商品事業は、「崖の上のポニョ」「劇場版ポケットモンスター

ダイヤモンド・パール ギラティナと氷空の花束シェイミ」「インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国」を中心に展開し売上増を目指します。版權事業は、「東宝怪獣キャラクター」等による商品化権ビジネスに注力するとともに、TVシリーズ「東京ゴーストリップ」による版權事業の拡大を目指します。また、(株)東宝映像美術、東宝舞台(株)、東宝アド(株)各社では営業・製作体制の一層の効率化を目指し、映画・演劇等の美術、イベント、広告等のさらなる受注増を図ります。これらの結果、映像事業収入は265億円（前期比7.8%減）を見込んでおります。

以上の結果、映画事業収入は1,228億円（前期比3.1%減）を見込んでおります。

■ 演劇事業

演劇事業では、東宝(株)において、帝国劇場で3月はジャニーズ公演「DREAM BOYS」、4月は松本幸四郎主演「ラ・マンチャの男」、5月は日本初演となるミュージカル「ルドルフ」、6月は「細雪」、7月から10月まで「ミス・サイゴン」の4ヶ月ロングラン公演、11・12月はミュージカル「エリザベート」を上演いたします。シアタークリエ3月公演は1・2月に続き「放浪記」、4月から6月までは新作ミュージカル「レベッカ」、7月はミュージカル「デュエット」、8月は東宝芸能(株)と共同製作となる「宝塚BOYS」、9月はマキノノゾミの傑作喜劇「青猫物語」、10月は内野聖陽主演、ノエル・カワード作、ジョン・ケアード演出「私生活」、11・12月はミュージカル「RENT」を予定しております。さらに日生劇場では3月にミュージカ

ル「ベガーズ・オペラ」、12月はミュージカル「ラ・カージュ・オ・フォール」を上演いたします。また新たな試みとして、韓国で2,000回以上公演を重ねているミュージカル「サ・ビ・タ」を7・8月に、シアタートラムにて日本初演いたします。社外公演は、「放浪記」「エリザベート」「ミス・サイゴン」などの巡回公演にも積極的に取り組み、東宝演劇公演を全国へ展開いたします。また東宝芸能(株)では、引続き多面的な営業努力を重ねることで業績の向上をめざします。

これらの結果、演劇事業収入は133億円（前期比0.2%増）を見込んでおります。

■ 不動産事業（不動産賃貸事業、道路事業、不動産保守・管理事業）

不動産賃貸事業では、東宝(株)の不動産経営部門において、建設中の京都東宝ビル、仙台東宝ビル、京極東宝ビルの完成オープンへ向けて鋭意工事を進捗させてまいります。その他全国に所有する不動産の検証を行い、長期的な視野で設備改修や開発を企画立案し、順次実施してまいります。また同社の東宝スタジオは、いよいよ全12ステージの営業体制が整い、通期でフル稼働の状況で推移する見通しです。6月に「プロダクションセンター増床」、「大道具棟増床」が竣工しますと、いよいよ総額50億円を投じた第一次スタジオ改造計画が全て完了することになります。また東宝不動産(株)においては、立地・環境・収益性等に優れた新規賃貸物件の取得に努めるとともに積極的な営業活動により業績の向上を図ります。さらに、全国各地で不動産賃貸事業に関わる連結各子会社においても営業努力を続けて

まいります。これらの結果、不動産賃貸事業収入は303億円（前期比7.8%増）を見込んでおります。

道路事業では、国や地方自治体による事業縮減、同業者間の低価格化による熾烈な受注競争等、業界を取り巻く環境は一層厳しさを増しており、スバル興業(株)とその連結子会社においては、引続き積極的な営業活動を展開し、受注の確保に努めてまいります。道路事業収入は185億円（前期比14.5%減）を見込んでおります。

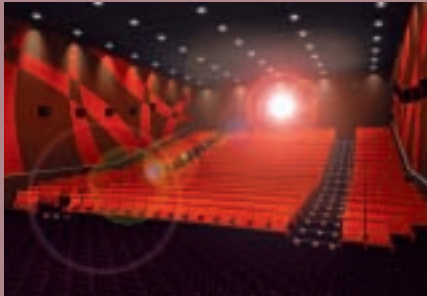
不動産保守・管理事業では、低価格競争と賃金上昇にはさまれる中、東宝ビル管理(株)及び(株)東宝サービスセンターにおいて、コスト削減、高品質サービスの維持に努めながら、新規や臨時業務の受注拡大を図ってまいります。これらにより不動産保守・管理事業収入は110億円（前期比4.2%減）を見込んでおります。

以上の結果、不動産事業収入は598億円（前期比2.3%減）を見込んでおります。

■ その他事業

娯楽事業及び物販・飲食事業は、引続き厳しい環境下、東宝共栄企業(株)、(株)東宝エンタープライズ等において、顧客の認知度を高めるべく効率的な宣伝活動を行うなど積極的に新規顧客獲得に取り組む一方で、コスト削減等を図り収益構造の見直しに努め、その他事業収入は41億円（前期比7.3%増）を見込んでおります。

（注：本報告書中の記載金額及び株式数は、表示単位未満を切捨てております。）



■ TOHOシネマズ鳳



■ DVD「植木等のゴクラク映画ボックス」



■ 「ルドルフ」



■ 韓国ミュージカル「サ・ビ・タ」



■ 京都東宝ビル（4月竣工）



■ スバル興業(株)の道路事業

連結貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成20年2月29日 現在	平成19年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	69,273	74,709
現金及び預金	14,659	22,838
受取手形及び売掛金	18,910	16,545
有価証券	13,811	4,357
たな卸資産	9,196	11,218
繰延税金資産	2,036	3,239
現先短期貸付金	4,197	12,631
その他	6,586	4,269
貸倒引当金	△125	△390
固定資産	262,898	295,480
有形固定資産	145,531	134,815
建物及び構築物	98,656	90,815
機械装置及び運搬具	2,929	2,473
器具及び備品	1,710	1,665
土地	37,266	35,836
建設仮勘定	4,967	4,025
無形固定資産	9,375	9,539
借地権	1,034	1,034
連結調整勘定	—	7,512
のれん	7,071	—
その他	1,270	991
投資その他の資産	107,990	151,126
投資有価証券	78,577	122,400
繰延税金資産	1,557	955
差入保証金	18,321	17,851
その他	10,348	10,588
貸倒引当金	△814	△670
資産合計	332,171	370,190

1 投資有価証券

前期末に対し43,822百万円減少しておりますが、主に株式相場のサブプライムローン問題等による大幅下落のため保有株式の含み益が減少したことと、株式会社阪急百貨店株式の売却によるものです。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成20年2月29日 現在	平成19年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	52,881	46,817
買掛金	12,538	10,501
1年以内償還予定社債	10,000	—
短期借入金	4,266	4,392
1年以内返済予定長期借入金	986	1,765
未払金	2,976	4,527
未払費用	8,073	7,488
未払法人税等	4,409	7,446
未払消費税等	807	531
賞与引当金	937	980
役員賞与引当金	7	252
アスベスト対策工事引当金	52	57
受注損失引当金	—	11
預り保証金(1年内返還)	1,591	2,220
その他	6,234	6,641
固定負債	49,591	75,812
社債	10,000	20,000
長期借入金	915	1,841
繰延税金負債	6,794	20,331
退職給付引当金	5,036	5,884
役員退職慰労引当金	598	563
アスベスト対策工事引当金	34	87
PCB処理引当金	52	—
預り保証金	24,450	25,705
その他	1,709	1,397
負債合計	102,473	122,630
純資産の部		
株主資本	197,582	193,835
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	13,904	13,851
利益剰余金	173,761	170,217
自己株式	△439	△589
評価・換算差額等	10,524	31,988
その他有価証券評価差額金	9,381	30,845
土地再評価差額金	1,143	1,143
少数株主持分	21,591	21,735
純資産合計	229,698	247,560
負債・純資産合計	332,171	370,190

連結損益計算書

科目	当 期	前 期
	平成19年3月1日から 平成20年2月29日まで	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで
営業収入	205,037	201,026
営業原価	129,371	126,146
売上総利益	75,665	74,879
販売費及び一般管理費	55,707	51,492
営業利益	19,958	23,386
営業外収益	2,204	2,574
営業外費用	469	442
経常利益	21,693	25,518
2 特別利益	5,273	4,899
3 特別損失	7,995	7,960
税金等調整前当期純利益	18,971	22,458
法人税、住民税及び事業税	8,556	11,323
法人税等調整額	2,052	1,165
少数株主利益	1,073	2,191
当期純利益	7,289	7,778

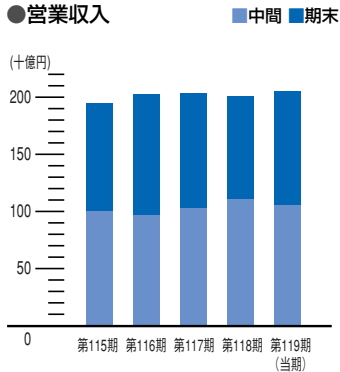
2 特別利益

主に株式会社阪急百貨店株式他の投資有価証券売却益4,218百万円によるものです。

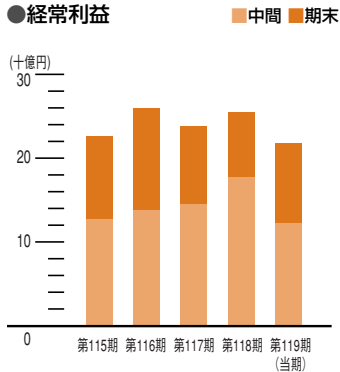
3 特別損失

主に保有株式の評価損3,201百万円、減損損失1,366百万円等によるものです。

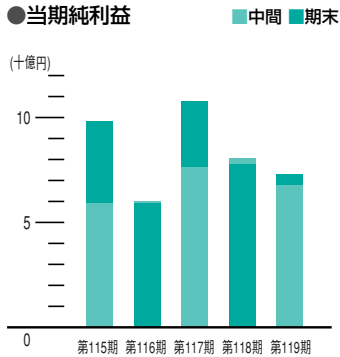
●営業収入



●経常利益

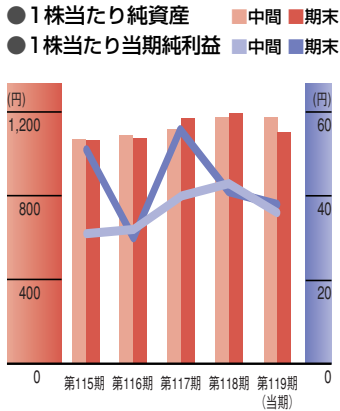


●当期純利益



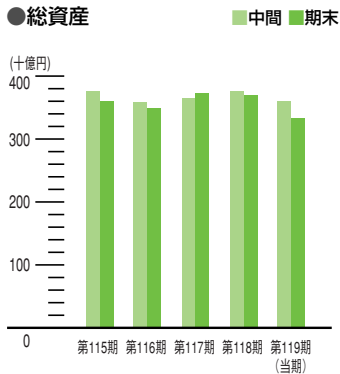
※第116期の当期純利益の減少は、減損会計の前倒し適用によるものです。

●1株当たり純資産

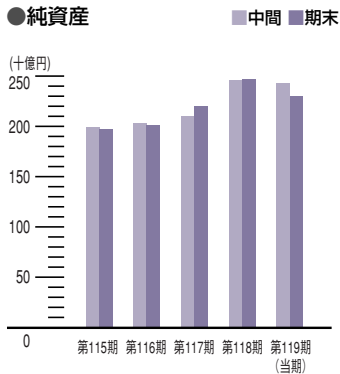


●1株当たり当期純利益

●総資産



●純資産



連結株主資本等変動計算書

(平成19年3月1日から平成20年2月29日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式 ¹	株主資本合計	その他有価証券 評 価 差 額 金	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計		
平成19年2月28日残高	10,355	13,851	170,217	△589	193,835	30,845	1,143	31,988	21,735	247,560
当連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△3,777		△3,777					△3,777
当期純利益			7,289		7,289					7,289
自己株式の取得				△42	△42					△42
自己株式の処分		49		179	228					228
株式交換による自己株式の減少				13	13					13
株式交換による資本剰余金の増加		3			3					3
合併による増加			32		32					32
株主資本以外の項目の連結 会計期間中の変動額（純額）						△21,464	0	△21,463	△144	△21,608
当連結会計期間中の変動額合計	—	52	3,543	150	3,746	△21,464	0	△21,463	△144	△17,861
平成20年2月29日残高	10,355	13,904	173,761	△439	197,582	9,381	1,143	10,524	21,591	229,698

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成19年3月 1 日から 平成20年2月29日まで	平成18年3月 1 日から 平成19年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,786	22,995
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,292	△11,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,305	△12,302
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45	25
² 現金及び現金同等物の増減額	△14,857	△533
現金及び現金同等物の期首残高	36,663	37,197
合併により受け入れた現金及び現金同等物の残高	103	—
現金及び現金同等物の期末残高	21,909	36,663

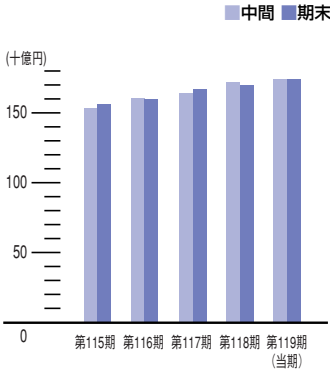
1 自己株式

期中取得と株式交換による処分で期末残高は439百万円の株主資本の控除となりました。

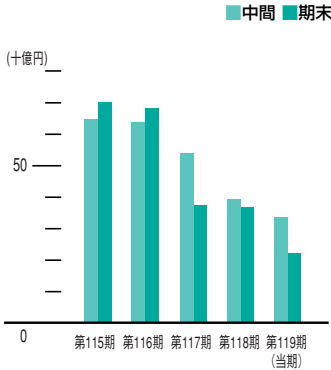
2 現金及び現金同等物の増減額

有形固定資産の取得により、20,490百万円減少したこと等により、14,857百万円の減となりました。

●利益剰余金残高



●現金及び現金同等物の残高



映画製作・配給

(株)東宝映画 ……映画の企画・製作
東宝東和(株) ……洋画の輸入・配給
(株)東京現像所 ……フィルムの現像、CG・デジタル合成などの処理

映画興行

TOHOシネマズ(株) ……日劇プレックス・TOHOシネマズ六本木ヒルズなどの映画館経営
※ 東宝東日本興行(株) ……TOHOシネマズひたちなか・TOHOシネマズ宇都宮などの映画館経営
※ 東宝関西興行(株) ……TOHOシネマズ緑井・TOHOシネマズ高知などの映画館経営
※ 九州東宝(株) ……天神東宝・TOHOシネマズ光の森などの映画館経営
※ 中部東宝(株) ……TOHOシネマズ木曽川・TOHOシネマズ東浦などの映画館経営

北海道東宝(株) ……札幌東宝公衆・恵庭東宝シネマ8などの映画館経営
関西共栄興行(株) ……松江SATY東宝・米子駅前SATY東宝の経営
九州共栄興行(株) ……長崎における映画館経営
(株)公衆会館 ……東宝公衆（京都）の経営、ビルの賃貸

映像の製作・販売

(株)日本映画新社 ……PR映画・記録映画の企画・制作、映像ライブラリー事業
東宝ミュージック(株) ……映画・ミュージカルなどの音楽製作、音楽原盤・著作権の管理
(株)東宝映像美術 ……映画・テレビ・CMなどの美術製作、テーマパーク・イベントの企画・デザイン・施工
(株)東宝ビルト ……テレビ・CMなどの美術製作、スタジオのレンタル
(株)東宝コスチューム ……映画・テレビ・イベント・テーマパークなどの衣裳の製作・レンタル
東宝舞台(株) ……演劇・テレビなどの舞台美術・小道具・衣裳の製作
東宝アド(株) ……テレビ・新聞・雑誌など広告媒体の取扱代理業、映像・ポスターなど各種宣伝広告物の企画・デザイン・制作

演劇事業

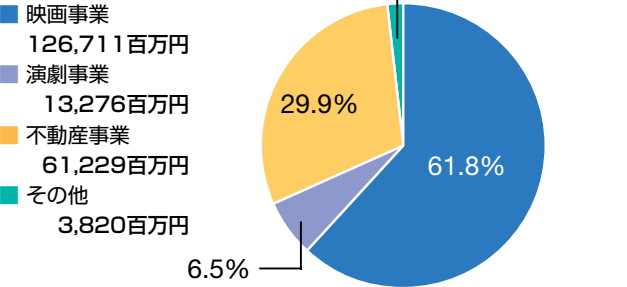
東宝芸能(株) ……映画・演劇・テレビなどへの俳優の斡旋、演劇の企画・製作、イベントの企画・製作
(株)東宝エージェンシー ……演劇公演の団体入場券の斡旋・販売

不動産の賃貸等

国際放映(株) ……スタジオのレンタル、テレビ番組の企画・制作
三和興行(株) ……新宿文化ビルなどの賃貸
東宝不動産(株) ……東宝ツインタワービル・帝劇ビルなど不動産の賃貸、劇場内売店の経営、飲食店の経営、保険代理業、介護事業
札幌公衆興業(株) ……東宝公衆会館（札幌）の賃貸
萬活土地起業(株) ……長崎・熊本・鹿児島におけるビルの賃貸
新天地(株) ……広島宝塚会館の賃貸

※：平成20年3月1日にTOHOシネマズ(株)に吸収合併

●当期事業部門別営業収入比率



道路事業

スバル興業(株)他13社 ……道路の維持清掃及び補修工事、飲食店の経営、有楽町スバル座の経営

不動産の保守・管理

(株)東宝サービスセンター ……ビルの管理・清掃・警備（東京・仙台・北海道など）
東宝ビル管理(株) ……ビルの管理・清掃・警備（近畿・中部・九州など）

飲食・娯楽事業

東宝共栄企業(株) ……日曜大工センター（成城・調布）、調布ゴルフコース、調布テニスクラブの経営
(株)東宝エンタープライズ ……東宝ダンスホールの経営
(株)東宝ステラ ……東宝作品のビデオ・パンフレット・キャラクター商品などの流通・販売、映画原版・プリントの管理
東宝フーズ(株) ……ベーカリーショップの経営、劇場コンセッション用及び一般食材等の販売

持分法適用会社

オーエス(株) ……OSシネマズ ミント神戸など15スクリーンの映画館経営、OSビルなど不動産の賃貸、梅田OSホテルの経営
(株)東京楽天地 ……錦糸町楽天地ビルの賃貸、TOHOシネマズ錦糸町など映画館の経営、ボウリング場・サウナなどの経営
成旺印刷(株) ……パンフレット・ポスター・チラシなど、各種印刷物の製作
(株)アイアクセス ……道路の維持補修

貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成20年2月29日 現在	平成19年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	32,728	30,456
現金及び預金	2,503	3,929
受取手形及び売掛金	7,645	6,677
有価証券	9,968	399
たな卸資産	5,321	4,631
繰延税金資産	447	992
現先短期貸付金	4,197	11,992
関係会社短期貸付金	370	435
その他	2,280	1,498
貸倒引当金	△6	△100
固定資産	203,797	232,518
1 有形固定資産	93,327	88,043
建物及び構築物	68,367	64,418
機械及び装置	1,136	607
器具及び備品	679	548
土地	19,670	20,335
建設仮勘定	3,473	2,133
無形固定資産	2,014	1,705
借地権	934	934
その他	1,080	771
投資その他の資産	108,456	142,769
投資有価証券	61,855	100,512
関係会社株式	23,784	25,030
関係会社長期貸付金	19,856	14,152
差入保証金	1,707	1,694
その他	2,742	3,072
貸倒引当金	△1,490	△1,693
資産合計	236,525	262,974

1 有形固定資産

主に建物で東宝シアタークリエビル、高知東宝ビル、東宝スタジオ新ステージ等の竣工による増加と減価償却による減少により、5,283百万円増加しております。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成20年2月29日 現在	平成19年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	44,695	33,278
買掛金	5,502	3,618
1年以内償還予定社債	10,000	—
関係会社短期借入金	13,797	15,230
1年以内返済予定長期借入金	760	1,233
未払金	2,056	2,156
未払費用	4,128	3,838
未払法人税等	2,954	2,529
賞与引当金	256	257
役員賞与引当金	—	90
アスベスト対策工事引当金	52	47
その他	5,186	4,277
固定負債	48,071	72,169
社債	10,000	20,000
長期借入金	790	1,550
関係会社長期借入金	13,639	11,965
繰延税金負債	3,829	17,105
退職給付引当金	2,174	2,054
アスベスト対策工事引当金	34	87
未払役員退職慰労金	1,015	1,036
預り保証金	16,588	18,370
負債合計	92,766	105,448
純資産の部		
株主資本	135,871	129,614
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	10,695	10,690
資本準備金	10,603	10,603
その他資本剰余金	91	87
利益剰余金	114,893	108,614
利益準備金	2,588	2,588
その他利益剰余金	112,305	106,026
土地圧縮積立金	243	197
建物圧縮積立金	63	—
別途積立金	90,465	85,465
繰越利益剰余金	21,533	20,364
自己株式	△73	△47
評価・換算差額等	7,887	27,911
その他有価証券評価差額金	7,887	27,911
純資産合計	143,759	157,525
負債・純資産合計	236,525	262,974

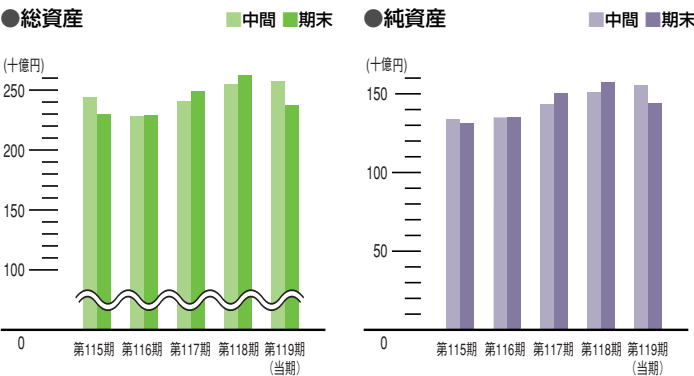
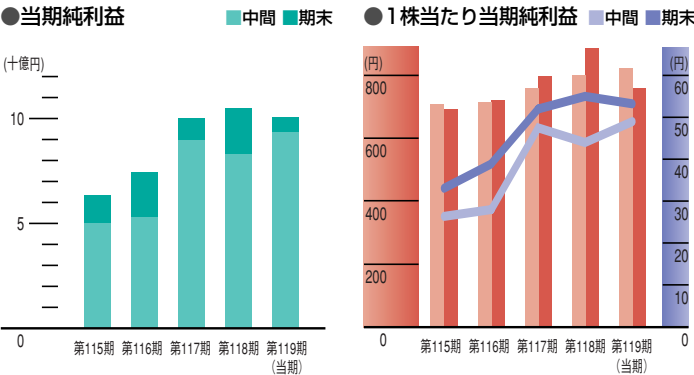
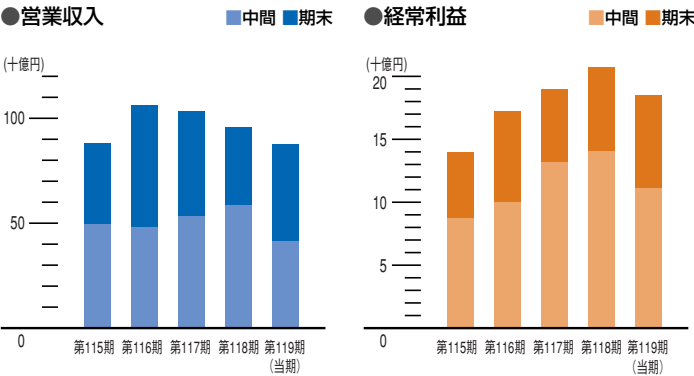
損益計算書

科目	当 期	前 期
	平成19年3月1日から 平成20年2月29日まで	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで
営業損益		
営業収入	87,449	95,619
営業原価	51,873	51,773
売上総利益	35,576	43,845
販売費及び一般管理費	22,304	27,915
営業利益	13,271	15,930
営業外損益		
収入利息及び配当金	5,390	4,797
その他の営業外収益	357	419
営業外収益計	5,747	5,217
支払利子	387	297
その他の営業外費用	71	135
営業外費用計	459	433
経常利益	18,560	20,714
特別利益		
固定資産売却益	246	—
投資有価証券売却益	3,195	—
抱合せ株式消滅差益	83	—
関係会社清算益	52	—
貸倒引当金戻入益	—	1,850
関係会社特別配当金	—	1,440
特別利益計	3,578	3,290
特別損失		
固定資産取壊費用	117	682
固定資産除却損	131	328
減損損失	973	—
立退補償金	431	521
投資有価証券評価損	3,111	3,168
関係会社清算損	—	33
特別損失計	4,764	4,734
税引前当期純利益	17,374	19,270
事業税	1,098	1,050
法人税及び住民税	5,269	5,419
法人税等調整額	949	2,263
当期純利益	10,058	10,537

2 投資有価証券売却益

株式会社阪急百貨店の自己株式取得の要請に応じ、同社株式を譲渡したことによるものです。

(単位：百万円)



株主資本等変動計算書

(平成19年3月1日から平成20年2月29日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本											評価・換算 差 額 等	純資産合計	
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金					自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評価差額金		
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	その他利益剰余金								利益剰余金 合 計
						土地圧縮 積 立 金	建物圧縮 積 立 金	別途積立金	繰越利益 剰 余 金					
平成19年2月28日残高	10,355	10,603	87	10,690	2,588	197	—	85,465	20,364	108,614	△47	129,614	27,911	157,525
当事業年度中の変動額														
別途積立金の積立								5,000	△5,000					
剰余金の配当									△3,779	△3,779		△3,779		△3,779
土地圧縮積立金の積立						46			△46					
建物圧縮積立金の積立							63		△63					
建物圧縮積立金の取崩							△0		0					
当期純利益									10,058	10,058		10,058		10,058
自己株式の取得											△42	△42		△42
株式交換による自己株式の減少											16	16		16
株式交換によるその他資本剰余金の増加			4	4								4		4
株主資本以外の項目の 当事業年度中変動額(純額)													△20,024	△20,024
当事業年度中の変動額合計	—	—	4	4	—	46	63	5,000	1,169	6,278	△26	6,257	△20,024	△13,766
平成20年2月29日残高	10,355	10,603	91	10,695	2,588	243	63	90,465	21,533	114,893	△73	135,871	7,887	143,759

1 自己株式の取得

当事業年度中の自己株式の取得42百万円は、株主の皆様からの単元未満株式の買取ご請求によるものです。

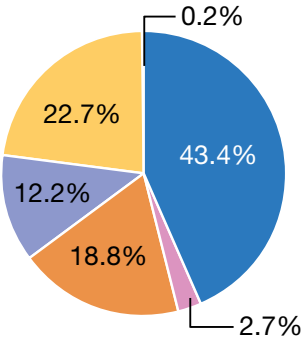
2 株主資本以外の項目の
当事業年度中の変動額

その他有価証券評価差額金△20,024百万円は、当期末において保有する有価証券に係る評価金額の増減差額によるものです。

●東宝(株)当期部門別営業収入比率

- 映画製作・映画営業 …… 386億円
- 映像制作 …………… 23億円
- 映像事業 …………… 166億円
- 演劇興行 …………… 108億円
- スタジオ・不動産経営 ……202億円
- その他 …………… 1億円

(各部門とも数字は内部振替控除前のものです。)



配当金について

配当金につきましては、創立75周年を迎えました第119期業績もおかげさまをもちまして順調に推移しましたことにより、別紙のとおり、創立75周年記念配当5円を加え1株20円として定時株主総会においてご決議いただきました。

当社といたしましては一層の経営の充実をはかり、業績向上を期すべく努力いたす所存でございます。なにとぞ益々のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

配当金のお支払いにつきましては、特にご指定のない方は同封の期末配当金領収証により、払渡期間（平成20年5月23日～平成20年6月23日）中に、ゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局にてお受け取りください。（同領収証を、お取引の貯金口座のあるゆうちょ銀行または預金口座のあるその他銀行窓口にお持ちいただくことにより、その口座へ入金することもできます。）

また、銀行預金口座振込をご指定の方は同封の「期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」によりご確認ください。

来期の配当予想について

第120期の配当予想につきましては、1株当たり中間5円（普通配当）、期末15円（普通配当5円、特別配当10円）の計20円を予想いたしております。

会社の利益配分の基本方針

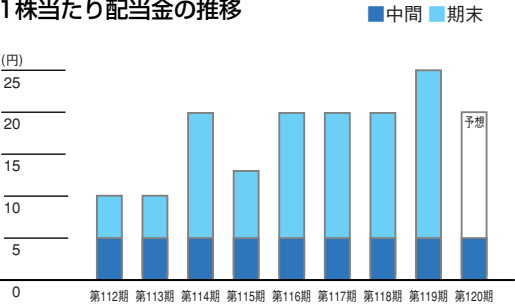
当社グループの主要事業であります映画・演劇は、作品により損益の変動が絶えず、安定配当確保と財務体質強化のため内部留保に努めてまいりましたが、収益に対しバランスの取れた株主還元を行うことも重要と認識しております。

かかる方針のもとに当社は第99期（昭和62年）より年額100円の配当を続けてまいりました。また平成14年4月には投資単位引下げのため1：10の株式分割を実施し、第114期（平成14年）は創立70周年記念配10円を合わせ年額20円の配当を実施、第115期は3円の特別配当を含め年額13円の配当を行いました。さらに第116期、第117期及び第118期は好業績を反映させた10円の特別配当を含め、年額20円の配当を行い、第119期は10円の特別配当に創立75周年記念配5円を合わせ、年額25円の配当を行いました。

今後も年額10円の普通配当を堅持しつつ、業績と資金需要に意を配りながら株主還元に努めてまいれる所存です。

内部留保の使途につきましては、優れたコンテンツの獲得、シネマ・コンプレックスの展開、所有不動産リニューアル等、中長期的展望に基づきグループ収益基盤の強化に当ててまいります。

1株当たり配当金の推移



※平成14年4月（第114期中）に1：10の株式分割を実施いたしました。第113期以前の配当金は比較のため10分の1に換算して表示しております。

株式の状況

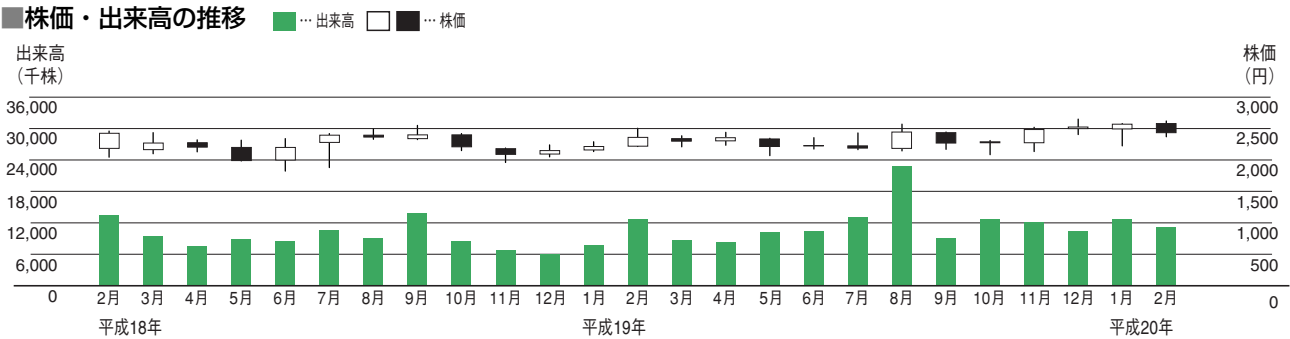
発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	188,990,633株 (自己株式36,795株を含む)
株主数	22,986名 (前期末比 4,393名減少)

大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
阪急阪神ホールディングス株式会社	22,807	12.07
阪急不動産株式会社	15,150	8.01
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	14,987	7.93
エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社	13,664	7.23
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	5,212	2.75
株式会社フジテレビジョン	4,940	2.61
株式会社東京放送	4,521	2.39
株式会社電通	3,779	2.00
株式会社丸井グループ	3,223	1.70
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	2,855	1.51

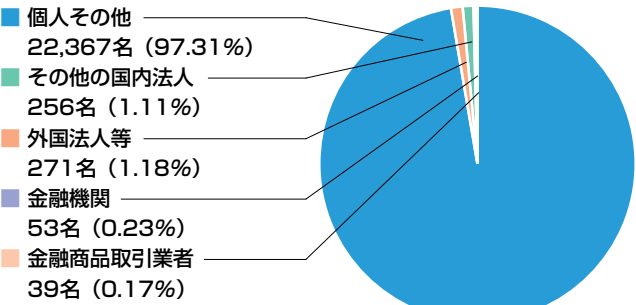
(注) 出資比率は、自己株式36,795株を控除して計算しております。

株価・出来高の推移

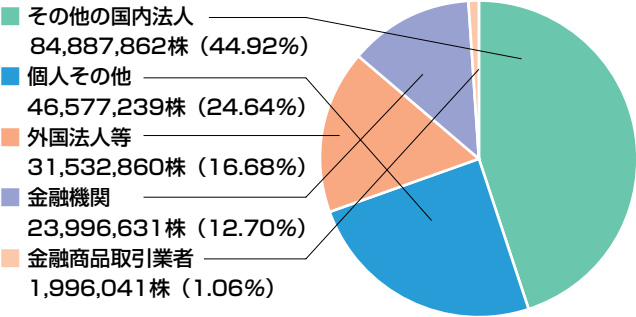


所有者区分別株式分布状況

株主数



株式数



会社概要（平成20年2月29日現在）

会社名	東宝株式会社
設立	昭和7年8月12日
資本金	10,355,847,788円
従業員数	323名 但し、嘱託9名を含み、出向者144名を含みません。
本社	東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
支社	関西（大阪）
スタジオ	東京 世田谷（成城）
演劇直営劇場	本社直轄2劇場（帝国劇場、シアタークリエ）
その他の営業所 (主な賃貸ビル)	有楽町センタービル（通称有楽町マリオン） 東宝日比谷ビル（通称日比谷シャンテ） 東京宝塚ビル 東宝シアタークリエビル HEPナビオ 東宝南街ビル
主な事業内容	映画
映画	映画の製作、売買及び賃貸借、 テレビ放送番組等の制作及び販売、 映画のパンフレット及びビデオソフトの製作 並びに販売、商品化権に関する事業、その他
演劇	演劇の企画、製作及び興行
不動産経営	土地・建物の賃貸借、その他

役員（平成20年5月22日現在）

代表取締役 取締役会長	松岡 功	
代表取締役 取締役社長	高井 英幸	映像本部長兼映像本部国際、 グループ経営企画各担当
専務取締役	山田 啓三	不動産経営担当
専務取締役	千田 諭	映像本部映画営業、同宣伝各担当
専務取締役	中川 敬	スタジオ担当
専務取締役	増田 憲義	演劇担当
専務取締役	高橋 昌治	人事、労政、総務各担当 兼グループ経営企画担当補佐
専務取締役	島谷 能成	映像本部映画調整、同映像制作各担当
常務取締役	大隈 廣	労政担当
常務取締役	越智 幸次	関西支社長
取締役	小林 公平	阪急電鉄株式会社顧問
取締役	藤原 正道	映像本部映像事業担当兼映像事業部長
取締役	浦井 敏之	経理・財務、情報システム各担当 兼特定取締役
取締役	村上 主税	TOHOシネマズ株式会社代表取締役社長
取締役	島田 達也	人事部長
取締役 (新任)	石塚 泰	労政部長
取締役 (新任)	太古 伸幸	グループ経営企画部長
常勤監査役	赤井 紀雄	監査役会議長兼特定監査役
常勤監査役	三屋 秀明	
監査役	大西昭一郎	弁護士
監査役	大橋 太郎	阪急電鉄株式会社相談役

■株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日
 定時株主総会 5月中
 配当金受領株主確定日 期末配当金 2月末日
 中間配当金 8月31日
 基準日 定時株主総会 2月末日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定める。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 (同送付先) 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
 野村證券株式会社 全国本支店
 変更届等用紙のご請求は次の通り承っております。
 電話 0120-244-479
 (三菱UFJ信託銀行株式会社)
 インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
http://www.toho.co.jp/toho_ir/

公告掲載URL ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって公告いたします。

■株主優待

株主カード及び株主映画ご招待券交付基準

ご所有株数	株主カード貸与枚数		株主映画ご招待券発行シート数(半年につき)(※)
	ご本人カード	ファミリーカード	
1,000株～1,999株	1枚	0枚	1シート
2,000株～2,999株			2シート
3,000株～4,999株			3シート
5,000株～9,999株		1枚	6シート
10,000株～19,999株		2枚	10シート
20,000株～29,999株	3枚		15シート
30,000株～49,999株			20シート
50,000株～99,999株			25シート
100,000株以上			30シート

・株主映画ご招待は、株主カードと株主映画ご招待券を映画館チケット売場等でご提示いただき、双方に記載された優待番号が一致したとき、ご利用いただけます。

・株主カードの発行は、原則として初回のみ、5月下旬または11月中旬となります。

※株主映画ご招待券1シートは、指定2ヶ月間通用券×6枚となります。

2月末日現在の株主に5月下旬に発行：6・7月、8・9月、10・11月通用各2枚。

8月末日現在の株主に11月中旬に発行：12・1月、2・3月、4・5月通用各2枚。

株主映画ご優待券交付基準 (800円で映画をご覧頂けます。)

100株～499株	半年 2枚	500株～999株	半年 8枚
-----------	-------	-----------	-------

2月末日現在の株主に6月から11月まで半年間通用の券を5月下旬に発行。

8月末日現在の株主に12月から翌年5月まで半年間通用の券を11月中旬に発行。

株主優待制度についての詳細は、当社ホームページ「IR情報」「株主優待」をご覧ください。

●表紙のご紹介

『崖の上のポニョ』

全世界待望のスタジオジブリ最新作『崖の上のポニョ』は『ハウルの動く城』(2004年11月公開)以来4年ぶりとなる、宮崎駿監督のオリジナル作品です。「人間が手で描く」というアニメーションの根源にこだわり、従来のスタイルとは一線を画したアニメーション表現へと挑戦している、宮崎駿監督の渾身の意欲作。「人間になりたい」と願った、さかなの子「ポニョ」と5才の男の子、宗介の物語です。7月19日(土)公開!

〒100-8415

東京都千代田区有楽町一丁目2番2号

東宝株式会社

総務部 電話 (03) 3591-1214

<http://www.toho.co.jp>